jaicows Newsletter
No.8 (2002.2.28 発行)

Ⅰ．この間のＪＡＩＣＯＷＳの活動

Newsletter No.7 発行（2001.6.30）後のJAICOWSの活動を簡単にお知らせします。

①まず、Newsletter No.7 発行時に終了していなかった会計監査を、ワールドプランニングを通じて7月15日に、袖井孝子・馬場房子氏にしていただき、記載どおり相違ないという報告を受けました。

②この間、JAICOWS 役員会は2回開催されました。1回目は2001年9月27日、2回目は2002年1月のメール役員会です。内容は下記③に関することです。

③今年度活動計画の中にあった事項のうち、常時ホームページでの広報活動を行ない、日本学術会議「ジェンダー特委」・同「ワーキンググループへの協力」を行ないました（具体的には、下記に報告する日本学術会議会員へのアンケートに協力したことです）。なお、今回最終ページに付したちらしのようなシンポジウムを企画しました。

④本 Newsletter No.8 では、上記③に関して、「ジェンダー特委ワーキンググループ」長の池内了日本学術会議会員の協力をえて、概要をお知らせします。下記文章は池内了氏が『学術の動向』用にまとめられたものの一部を、御本人の許可を得て下敷きにさせて頂いています。池内了氏に感謝します。

Ⅱ．「学会大会時の保育サービスに関する」アンケート結果について

1．この間の経緯

日本学術会議第135回総会（平成13年4月）の際に学術会議会員に「研究者の別姓使用」に関するアンケートを実施し、その結果は「学術の動向」平成13年11月号で報告されています。幸い、文部科学省の科学研究費補助金の申請にあたって使用する研究者登録番号において旧姓の使用が認められるようになりました。

引き続いて、特に若手研究者からの要望の強い「学会大会時の保育サービス」についてＷＧとして取り組むこととし、第136回総会（平成13年10月）の際に学術会議会員の皆様にアンケートをお願いしました。以下において、アンケート文の要点と集約した結果を報告します。

2．アンケート文

「学会大会時の保育サービス」アンケートご協力のお願い

女性研究者や共働きの研究者の増加とともに、若手研究者に対する育児援助の必要性が増しています。日本学術会議ではこれまで女性科学者問題を継続してあつかってきており、第17期の「女性科学者の環境改善の推進」特別委員会では、女性科学者の環境について国際比較調査をおこない、広く議論が展開されました。そして、第132回総会では「女性科学者の環境改善の具体的措置について」の「要望」を決議しました。そこには研究者に対する育児援助の必要性を明記しています。

最近では、学会年会に子供づれで参加する研究者のために、保育室を設置する学会が増えてきました。女性研究者をめぐる状況は分野により異なるため、ひろく皆様のご意見をお聞きし、今後の活動の参考にさせていただきたいと思います。

アンケートにぜひご協力をお願いいたします。

保育室の設置例

設置学会：英語学会、社会学会、心理学会、天文学会、物理学会、化学会、獣医学会、小児科学会、外科学会など、20を越える学会で設置されている。

日本天文学会の例：

保育室：学会会場の近くの部屋（教室）にベビーベッドや玩具など保育施設を持ち込み、派遣会社に有資格者のシッターさんを依頼する。

安全性：派遣会社は保険に加入しており、子供と保育者両方の事故をカバーする。保育室の場所は当事者にしか知らせず、掲示も出さない。

責任者：学会理事が責任者となり運営。シッター派遣会社への支払は学会予算から。

設問

（1）学会保育室について

最近では、いろいろな学会で大会（年会）に保育室（託児室）が設けられ、子育て期間中の研究者が大会に参加しやすいよう便宜をはかっています。あなたは、学会大会時に保育室がある方がよいと思いますか。

（　　）ある方がよいと思う

（　　）なくてよい

（　　）その他　自由記述

（2）学会保育室の運営について

大会時の保育室は学会によっていろいろな形態があり、学会理事が保育室を運営するところもありますし、利用者である研究者（父母）が運営委員会をつくっている学会もあります。また予算面でも、学会の経常予算から費用を出す学会がある一方で、ボランティアが大会ごとにカンパを集め、父母から徴収する保育料が高額になるのを抑えている学会もあります。

学会大会における保育室の運営について、あなたのお考えを自由にお書き下さい。

（3）その他、若手研究者への育児支援について、自由にご意見をお書き下さい。

3．回答結果のまとめ

（Ⅰ）回答者の所属する部と年齢分布

	50代	60代	70歳以上	計	回答率(%)
第1部	3	12	5	20	65
第2部	5	3	3	11	42
第3部	4	3	4	11	42
第4部	2	13	2	17	55
第5部	1	10	0	11	33
第6部	5	14	1	20	67
第7部	2	10	8	20	61
計	22	65	23	110	52

前回の「研究者の別姓使用」に関するアンケートとほぼ同数の回答で、かろうじて過半数の会員からの回答が得られました。一般には、女性研究者の比較的多い分野や女性会員を選出している分野からの回答率が高い傾向にあります。年齢別では、50 代からの回答率が高く、周辺に育児途中の若手研究者が多いためと考えられます。

（Ⅱ）設問（1）学会保育室について

ある方がよいと思う　102 名
なくてよい　2 名
その他　6 名
（ある方がよいとの重複を除く）

圧倒的多数の会員から保育室の設置について支持する意向が示されました。

（Ⅲ）設問（2）学会保育室の運営について（自由記述）

非常に多くの会員からご意見を頂き、そのまま再録するのは困難ですので、以下には代表的なものを整理してまとめておきます。

（a）運営主体

・基本的に学会の事業とすべき。
・学会の責任で設置し、理事が運営する。
・学会が責任をもって機関またはグループに委託する。
・学会が費用を負担し、学会当番校が運営に当たることが望ましい。学会活動の強化のためにも、このような役割分担が望ましい。
・大会準備委員会による運営が無理がない。
・事故のことなどを考えると地元の大会実行委員会等に責任を負わせるのは無理。父母の責任で運営すべき。
・利用者が運営し、学会（あるいは学会当番校）が人的または経済的に支援するのが現実的。
・研究者が運営委員会を作ってやるのがよい。
・学会開催校の近隣の保育所と学会が契約して託児をお願いする。責任体制を明確にした保育室の運営が必要で、有資格者に依頼する。
・学会ごとに大きく事情が違うので、各学会で互いに交流しつつ経験を積み重ねるのが必要。
・各学会の事情・会員の実情に応じて、適切な運営方法がとられるべき。
・保育環境が整えば、あり方は多様であって良いのではないか。
・該当する研究者の数・割合に応じて適切な形も異なると思う。

（b）費用負担について

・学会の経常予算から費用を出すのがよい（日本天文学会方式）。
・天文学会のような実施方法は妥当と思われるが、責任者および費用負担者には疑問が残る。
・学会の運営費または大会開催予算で負担する。
・学会の事業予算プラス利用料金とする。
・学会会費に１００円ほど上積みして資金に充てるという方法もあろう。
・学会の経常基盤によるので一律には考えないで、学会と父母の両方で折り合いをつけて行うのが現実的。
・学会費からの充当には学会員多数の賛同は得がたいと考えられるので、現段階では、父母からの徴収、ボランティアやカンパの募集などがよい。

（c）学会・研連等での具体例

・社会学会では大会開催者が保育室を準備し、利用する会員がシッター会社と個別契約する方式。利用人数が増えれば、もっと組織的な対応が不可避。
・日本社会福祉学会をはじめ「福祉研連」として、現在設置の方向で検討中。ネックは事故対策と責任の所在の問題である。地域の保育サービスの柔軟化での対応も考えている。
・日本体育学会では 2001 年の大会で大会開催担当の組織委員会（北大）が初めて設置した。信用できる有資格者をお願いした。経験を積んで改善していけると思う。
・教育学全国学会では、理事運営・父母運営委員会ともに無理で、学会準備委員会の運営が当面無理がない。但し、この場合、会場校の都合によって恒例的設置が困難となることが予想される。理事会等で「運動」として設置

を要請するか、設置する場合は経常費等の一部を提供する申し合わせが必要と思う。
・細胞生物学会では、既に数年前から保育室サービスを行っている。
・(第４部会員) インターネットを利用した（人が動かない）大会を一部導入しているところがある。
・(第４部会員) 大規模大会においては参加費の一部で保育室の費用をカバーしているが、小規模大会の場合は出席女性会員数が少なく設置していない。
・機械学会では女性会員の比重が低いことが議論の対象になっています。この問題についても、ようやく話題になり始めたところです。
・(第６部会員) 従来はなかなかそこまで考慮されておらず、今春主催した学会でも考えていませんでした。しかし、会員からの問い合わせで近くの民間保育所で引き受けてくれるところを紹介しました。
・日本水産学会では、年２回の大会時に保育室を設置しているが、有資格者のシッターを配置することはしていない。今後理事会で検討していきたい。
・日本海洋学会の大会時には、必ず設けられている。ただし、女性会員を中心にして設けられているのであり、学会が義務として開設するまでには至っていない。
・日本林学会では、学会が補助し父母からの徴収も行い、大会運営（実行）委員会が運営する形で、既に実施している。
・日本獣医学会の経験から、安全確保の体制、万一の場合の責任体制、の２点をどのように保障するのかが大きな問題です。
・日本内科学会、日本腎臓学会、腎代謝学会では、基本的にはいつも年次総会で保育室を設置していると思う。
・日本医学会総会では、日本女医会の要望を受けて保育室を設置して運営が行われました。医学系学会では徐々に運営されるようになっていますが、将来は一般的に運営されることが望ましいと考えます。
・日本医師会においても先般から論議されている課題です。
・生理学研連では、関係各学会に大会時に保育室（託児室）を設けることを要請することを決めました。
・神経科学・神経化学合同大会では、2001 年９月の大会時に始めて託児室が設けられました。

（d）その他のコメント　略

（IV）設問（３）若手研究者への育児支援について（自由記述）　以下省略
（詳細は『学術の動向』2002 年３月号掲載）

ジェンダー特委&WG に出席して

昨年から学術会議の会合は原則公開となり、ジェンダー特委にも、何人か傍聴者が出席するようになった。科学新聞の記者も毎回取材にきている。そのせいか、科学新聞に女性研究者関連の記事が多く載るようになった。女性研究者の環境改善の問題は、男女にかかわらず、学術体制上の大きな問題であるので、いろいろな問題があることを多くの人に認識してもらえることは前進である。

ジェンダー特委では、毎回委員か外部の先生に講演をしていただいている。いろいろな分野の方の話を聞くのは勉強になり面白い。委員だけで独占するのはもったいない気もするくらいである。みなさんも傍聴されてはいかがでしょうか。

WG では、具体的な問題の解決にむけて、何をどのようにするのか、が話されている。これまで学術会員に２回アンケートをし、女性研究者の環境改善をサポートする意見を集約した。別姓や、若手研究者の育児援助などでは、あゆみは早くはないが、少しずつ環境が前進していることを感じている。ジェンダー特委が個々の研究者と政府との橋わたしをすることができればいいなと思う。

昨年の JAICOWS シンポジウムでは、文部省の役人がスピーカーとして出席し、フロアから出たたくさんの意見に耳を傾けた。こういう機会をもてるのは、学術会議ならではのことだと思う。今年のシンポジウムには新しい研連が共催に加わった。今後、JAICOWS のシンポジウムでも、いろいろな研連が主催に加わっていただけるといいなと思う。

（天文学研連　加藤万里子）

・この Newsletter　No. 8　は、担当の伊藤・中山・加藤が編集しました。

連絡先：女性科学研究者の環境改善に関する懇談会（JAICOWS）事務局
〒154-8533　東京都世田谷区太子堂 1-7
昭和女子大学女性文化研究所内　　担当幹事　伊藤　セツ
Tel　03-3411-5096　Fax 03-3411-5347　E-mail　jo-2100@swu.ac.jp
http://sunrise.hc.keio.ac.jp/~mariko/jaicows/
事務センター：〒105-0001　東京都港区虎ノ門 3-7-2 大橋ビル　株式会社ワールドプランニング内
Tel 03-3431-3715 Fax 03-3431-3325　E-mail world@med.email.ne.jp

シンポジウム

研究の世界における男女共同参画をめざして
－学校教育とジェンダーを考える－

日時：２００２年３月２５日　（月）14:00～16:30
場所：日本学術会議(５階会議室)(地下鉄乃木坂駅下車すぐ)(参加自由、入場無料)
共同主催：日本学術会議「ジェンダー問題の多角的検討」特別委員会、社会法学研連、天文学研連、家政学研連、木材学研連、その他の研連、 JAICOWS（女性科学者の環境改善に関する懇談会：Japanese Association for the Improvement of Conditions of Women Scientists)

総合司会：伊藤セツ（JAICOWS 事務局幹事、第６部家政学研連委員）
開会挨拶：島田淳子（JAICOWS 会長、第１６,１７期第六部会員、昭和女子大学教授）
挨　　拶：蓮見音彦（「ジェンダー問題の多角的検討」特別委員会委員長、和洋女子大学人文学部長、第一部会員）

【シンポジウムの主旨】
学校教育の隠れたカリキュラムを含む学校文化におけるジェンダーのあり方がどのように研究の世界での男女共同参画の促進要因または阻害要因になっているかを考える。そして大学入試や研究者となってからの職場での諸環境のどのような変化が促進要因として重要であるかを提案する。

司会　村松泰子(東京学芸大学教授)
・パネリストによる話題提供
① 学校教育とジェンダー全般の問題の構造について
館かおる(お茶の水女子大学ジェンダー研究センター教授)
② 理数科教育とジェンダー　瀬沼花子(国立教育政策研究所 総括研究官)
③ 関東学院大学工学部土木工学科の事例
昌子住江(しょうじすみえ)(関東学院大学教授・工学部第２部学部長)
・パネリストの間での討論／質疑応答
閉会の辞　直井道子(第１７,１８期第一部社会学研連委員、東京学芸大学教授)

問い合わせ先：〒223-8521 横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應大学 天文学教室
加藤万里子（天文学研連幹事、JAICOWS 広報担当役員）
(mariko@sunrise.hc.keio.ac.jp)

注意！！　ＪＡＩＣＯＷＳ会員・役員の方へ、第１１回総会のお知らせ

下記の通り総会を開催しますので御参加ください。出欠を同封のはがきでお知らせください。御欠席の方は委任状部分にサインをお願いします。　ＪＡＩＣＯＷＳ会長　島田淳子
日時：日時：２００２年３月２５日　（月）１３：００～１３：５５
場所：日本学術会議（５階会議室）
議題：２００１年度活動総括と会計報告、２００２年度活動計画と予算、その他
役員会：総会前の役員会は３月２５日（月）１０：３０～１２：００、上記会場で行ないます。